

特集「HRM on Campus —産学連携の人材育成—」

ま え が き

この特集「HRM on Campus —産学連携の人材育成—」は、佐野良雄教授の退職（2019年3月31日）に際して、佐野教授の専門であるHuman Resource Management（人材マネジメント）を主題としてまとめられたものである。特集記事の内容は、佐野教授のHRMに関する研究論文に加え、名古屋大学大学院経済学研究科・経済学部が取り組んでいる新しい形の産学連携による人材育成について、具体的な教育プログラムや活動を紹介し、その効果や今後の課題について論じたものである。

佐野教授は、1976年に上智大学を卒業後、株式会社三井物産に入社された。同社から派遣されたオクスフォード大学への留学や、ザンビア、イギリス、デンマークでの長年にわたる駐在等、国際的なビジネス経験を豊富に持たれ、さらに同社日本勤務においては人材育成部門にて国際人材の養成に携わっておられた。その豊富な国際経験や人材育成の経験を請われ、2013年4月より名古屋大学大学院経済学研究科における産学連携担当の実務家教員として就任された。

佐野教授の任務は、2008年より同経済学部が産学連携教育として運営しているグローバル人材育成プログラムにおいて、2013年度から2018年度まで二代目のコーディネーターとして担当することが大きな役割の一つであった。ここで佐野教授は、それまでにあったプログラムの本質を維持しつつ、地元の企業や経済団体、官公庁などとの連携を強化し、企業からの講師派遣や資金の提供等、同プログラムの運営とその改善に大きく貢献された。また、学生への教育効果を精査し、これまであった同プログラムのカリキュラム改善に努められ、新たに「グローバル・コーポレート・マネジメント」講義の開講を実現された。

また、佐野教授は自身の国際的なビジネス経験と学術的な知見を併用した「Introduction to Global management」、「Japanese Human Resource Management」や「Introduction to Japanese

Business」等、多くの国際的なビジネス活動や日本企業に関係する講義を英語で開講された。名古屋大学経済学部が開設している英語で講義を行うカリキュラムでは、東南アジアを筆頭に多くの外国人留学生が学んでいる。教科書をなぞるだけではない、経験に基づいたビジネスの臨場感がある佐野教授の講義は、非常に人気が高く、学生たちの進学や就職に大きく貢献してきた。また、これらの英語による講義を日本人学生にも積極的に受講するよう声をかけ、日本人学生の国際化にも尽力された。佐野教授の講義を受講した日本人学生の中には、その後海外留学へ参加した者や就職後に国際的な活動に従事している者も多くいると理解しており、学生への影響力は非常に大きなものがあつた。

さらに、佐野教授は、名古屋大学経済学部の国際交流、特に学部生の派遣・受入プログラムにて人材の育成に大きく貢献された。2013年以降グローバル人材育成プログラムの海外派遣（タイとシンガポール）を担当され、さらに2016年からはベトナム貿易大学（Foreign Trade University）との国際交流プログラムも担当され、引率も含めた学生指導を行われた。具体的な業務としては、学生募集において学部全体の留学説明会を共同で実施し、加えてプログラム毎の説明会も開催して、積極的に学生たちへ情報提供を行うと共に、事前学習や事後報告会等、学生の教育効果を狙った多くの取り組みを実施してこられた。また、派遣プログラム内では現地の日本企業とコンタクトを取り、工場見学や現地駐在員との意見交換等、海外での日本企業の仕事を学生たちに紹介してきた。

この特集は、こうした佐野教授の先進的な産学連携による人材育成に牽引される形で進んできた名古屋大学大学院経済学研究科・経済学部の活動について紹介する。特に、近年日本企業で求められる人材育成に焦点を当て、佐野教授のHRMに関する研究論文に加え、以下四編の研究動向から構成されている。

山田基成教授による「日本の製造企業におけるグローバル人材育成」は、名古屋大学の地元である東海地域の主要産業である製造業に焦点を当て、それらの企業で国際的に活躍できる人材を育てることに貢献すべく、2009年4月より二年生を対象に開始したグローバル人材育成プログラムの1科目として、グローバル・マニュファクチャリング・マネジメント(以下、GMMと略)を開講してきた。このGMMでは、文系学部であるがゆえに製造企業へのなじみが薄くなりがちな経済学部生にも、メーカーの企業活動の実態を学ばせ、具体的なビジネスシーンのイメージが描けるような講義内容を検討し、愛知県内を中心に卒業生たちが勤務する製造企業に講師の派遣を依頼してきた。本稿では、GMMにおける講義内容の紹介をした後に、講義を担当した講師の個人的な体験を踏まえたプレゼンテーションにみる、グローバル人材に求められる資質や能力について考察している。

樋野勲教授と小沢浩教授による「産学共創教育の現場から ～価値創造型サマーキャンプ「ころたま塾」～」では、名古屋大学の学生を対象とした合宿形式の人材育成プログラムである「ころたま塾」の内容を紹介している。この取り組みでは、新たな価値を作り出すことができる人材育成を目的とし、産学連携による課題創出型の取り組みを行っている。本取り組みの特徴は、理系文系の垣根を越えた学際的な活動を重視している点である。参加学生は、事前研修から三日間の合宿により、専攻や学年の枠を超えた学際的な議論を通して課題を見つけ出すためのグループワークを行い、最終的に支援企業の前で成果報告を行っている。本稿では、この取り組み成果と今後の課題を含め、将来的な展望について考察している。

江夏幾多郎准教授と株式会社イノベットの松岡洋佑氏の「リーダーシップ教育における産学連携」では、名古屋大学で実施しているリーダーシップ育成の講義を中心とした取り組みについて紹介している。ここで述べられているリーダーシップとは、限られ

た人だけのものではなく、権限に関わらず誰もが発揮すべき能力であるという考え、リーダーシップ教育には、これまでの経験を基に一定の自信とさらなる成長課題を自ら見出せるように支援する効能について紹介している。日本におけるリーダーシップ教育の状況や理論的な概念を紹介した上で、名古屋大学を中心とした事例紹介を行い、その成果や課題についても言及している。

土井康裕准教授の「産学連携による実用的な国際人材育成の取り組み“グローバル・ビジネス・プラクティス・ワークショップ”(留学生と日本人学生による地元企業の国際化支援)」では、名古屋大学経済学部・大学院経済学部の留学生拡大や国際プログラムの促進により、新たに開発されたワークショップについて紹介している。ここでは、自由貿易協定等による経済のボーダレス化やグローバルバリューチェーンによる企業活動のさらなるグローバル化を踏まえ、企業の課題に学生が取り組む概要が紹介されている。特に、日本人学生と留学生が地元企業の国際的な課題について、学生ならではの視点や留学生の国際的なネットワークや知識を活用し、取り組むことにより、企業に対して価値のある提案や情報を提供することに意義があると説明されている。また、この取り組みには、名古屋大学が包括連携協定を結んでいるJETROが支援に入っており、中小企業の海外展開に貢献することが期待されていることも紹介されている。

こうしてこの特集では、名古屋大学で実施されているグローバル人材育成を目指した産学連携の様々な取り組みについて紹介している。今後、学生たちがグローバルなビジネス社会で活躍するために必要な能力は、既存の教育だけでは上手く伸ばすことができないことが多くあり、近年の名古屋大学経済学部・大学院経済学研究科は教育的な挑戦をいくつも実施してきた。これらの取り組みにおいて佐野良雄教授の貢献は大きく、この特集が多くの方々にも広く知ってもらう機会となれば幸いである。

(土井康裕 記)